

看護職員の負担軽減計画(平成30年度)

現状・問題点	対応方針	具体的な計画	達成状況		
			平成30年4月	平成30年8月	平成31年3月
時間外勤務がみられる。	<ul style="list-style-type: none"> すべての部門において、業務分担の推進を再検討し時間外勤務の抑制を図る。 36協定の自己点検を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 労務量に合わせた業務分担の推進や業務の効率化を図る。必要に応じて人員の補充を検討する。 36協定の自己点検を行う。 	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	<input checked="" type="checkbox"/> 達成
看護師が不足している。	<ul style="list-style-type: none"> 適正人員の配置に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 採用方法や条件の見直しを弾力的に行い人員の確保に努める。 	<input checked="" type="checkbox"/> 一部達成	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	<input checked="" type="checkbox"/> 達成
病棟から外来応援時、外来業務習得者が限定され応援体制に支障がある。	<ul style="list-style-type: none"> 看護職の確保に努め業務習得に必要な人員を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 外来業務、内視鏡介助の習得計画を立案し実行する。 		(追加)	<input checked="" type="checkbox"/> 一部達成

- 36協定の遵守について職員に周知した。
- 人員確保のため採用方法や条件については弾力的に対処した。
- 看護師の宿日直料の見直しを行った。
- 病棟からの外来応援体制については人員不足も背景にあり計画の実行が困難であったが、新採用者2名の業務が自立し11月より外来看護師配置を7名から8名に増員。医師の協力も得て上部内視鏡介助は2名習得できた。下部内視鏡習得は今後計画予定。また、眼科外来業務及び眼科白内障手術時の機械だし業務を1名習得中である。専門的な知識、技術が必要であり引き続き業務支援が必要。

- 東病棟に複写機1台を設置し労務負担の軽減を図った。
- 内科待合室にテレビ1台を設置し、診察を待つ患者のストレス軽減と診察室からの声漏れを和らげることで看護師等の職場環境の改善を図った。
- 病棟に非接触式体温計を4台試験導入。感染症予防対策のほか、患者、看護師双方の計測時の負担軽減を図った。
- 褥瘡対策に効果があり、患者とケアをする看護師や看護補助者、双方の負担軽減にもつながる高機能エアーマットレスを、当初予算6台のほか、追加で8台導入。次年度10台分の予算を計上した。
- 社会福祉士の配置や理学療法士、作業療法士の増員を図り、多職種連携によるチーム医療の推進、働き方の改善を図った。
- 働きがいの向上を目的に次年度研究研修費予算へ看護師の医療技術向上研修費を予算計上した。